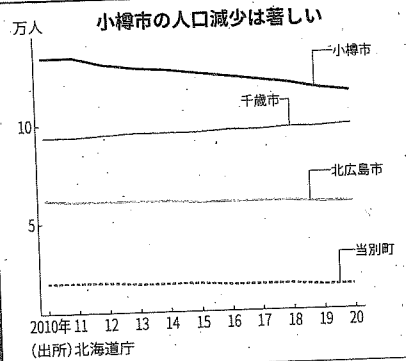


新旧エース、人口で明暗

北海道の人口は昭和の最盛期に20万人の人口を抱えていた。小樽市が10年で2万人を減らす一方、千歳市は新千歳空港の追い風を受けて人口を増やしてきた。インバウンド（訪日外国人）で潤ってきた新旧エースの明暗が分かれている。

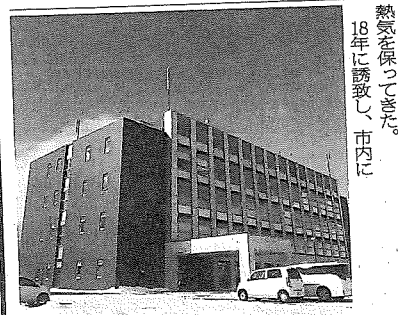
2020年5月、1回目の緊急事態宣言が明け、たばかりの小樽運河に観光客の姿はなかった。その後も続いた新型コロナウイルス（「屋カオオ」による）ラスター（感染者集団）



4 北の200万都市 生らサッポロ ベッドタウン争奪戦

発生など何度も苦境に見舞われた。市が危惧するのは人口減の流れがさらに加速することだ。小樽の人口減ビッチは札幌圏でも突出している。

追従市長は「この人口の減少のスピードをなんとか鈍化することができないか」と危機感を隠さない。中心商店街はシヤッター街と化し、昭和のノスタルジーや豊かな海産物を求めて訪れる観光客で賑わった市街地の熱気を保ってきた。



小樽市 年間2000人が流出 千歳市 企業誘致で若返り

定着した企業は1社。小樽駅周辺にコールセンターなどの誘致を目的として17年から始めたIT関連事業への補助金も利用者はゼロが続く。

小樽商科大学の鈴木将史副学長は「小樽は札幌のベッドタウンになることを躊躇（ちゅうちゅう）している。札幌に通う人たちの住まいの場として小樽も考えていかないといけない」と主張する。札幌駅までは電車で50分程度。20年10月に開いた市の人口対策会議では有識者から「札幌のベッドタウン化も視野に入れたまちづくり」との声が続出した。

10年で4400人増
 苦しむ小樽を横目に、人口流入で「若返り」に成功したのが千歳市。人口は10年で約4400人増え、平均年齢が43.5歳と道内で最も若い自治体になった。1月1日

総務省が発表した2020年の「住民基本台帳人口移動報告」によると、札幌市への転入超過は14年以降最大の1万4993人。全国で5番目の規模だ。転入者が転出者を上ることを躊躇（ちゅうちゅう）している。札幌に通う人たちの住まいの場として小樽も考えていかないといけない」と主張する。札幌駅までは電車で50分程度。20年10月に開いた市の人口対策会議では有識者から「札幌のベッドタウン化も視野に入れたまちづくり」との声が続出した。

転入超過「札幌圏」に集中
 いたま市に続く5位。19年（9812人）から19年には2位以下を大きく引き離して1位だ。一方、小樽市は20年度も466人の転出超過。2024歳は255人が流出している。学校卒業後の流出が多いようだ。北海道全体では転出超過が続いたものの、転出超過の規模は19年の5568人から縮小して1316人。2年連続で規模が縮小している。

北海道キックマンやカルビーなど大企業の誘致に次々と成功している。千歳市内には11区画ある工業団地にはデンソー、北海道（千歳市）やキリンビールの工場など、260社以上の企業が工場などの拠点を構えている。市はJ-R千歳線長都駅

のプラットフォーム整備をJ-R北海道に要望するなど、廃線と駅廃止が続く北海道では出資の勢いは止まらない。ワケシヨンのサテライトオフィスの設置などで新しい需要を掘り起こし、10万人の舞台をうかがう。（久員翔子）